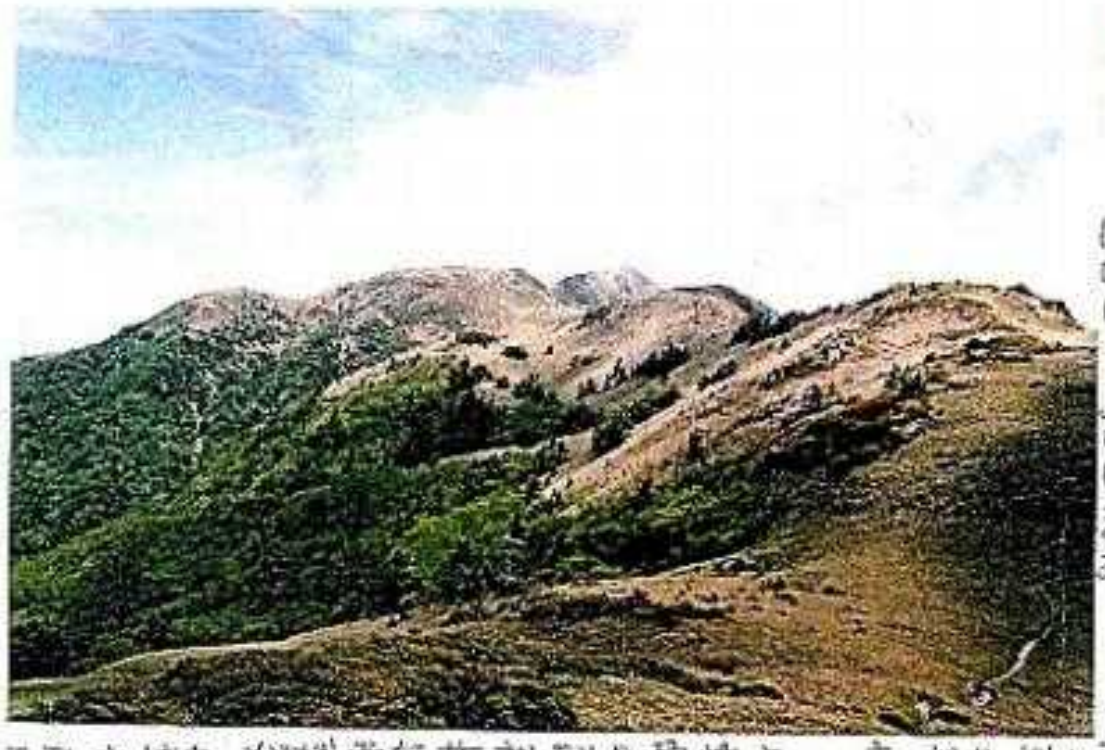
てんぐ新聞
05.12.No103
発行 佐市岡日出夫

三嶺は泣いている！



中断されていた「いやしの温泉から三嶺ゆ殷へのモノレール計画が着工されるとの新聞報道があったけど、「なぜ今」という気がする。「いやしの温泉」が、たった三年で冬場は閉じるという展望のない計画で作られた。その延長線上で、観光用モノレールを作るというのは、財政難で合併する村のとるべき道ではないと考えると、これ以上貴の財産を増やすべきではないとおもいます。

「観光」というなら、どういう方向の観光を目ざし、モノレールが必要かを明らかにすべきだとおもいます。最近、「伝説」で固より指定された落合地区、この景観を残し、伝えていくための方向は、落合地区だけの事ではなく、村ぐるみの方向のもとで落合地区をどう保存していくのかが重要だと文化庁の人が説明されていたが、祖谷の自然環境をどう守り、その価値を高めていくかは、三嶺服腹へのモノレール建設の方向とは正反対の方向だと私は考えるけど、おかしいでしょうか。

どこかの村の大きな駐車場を例に出すまでもなく、単に観光だけを考えると、将来的に価値がなくなり、「ぼりや橋」のようになりかねません。観光ベスの添乗員が最近言っているそうです。「もうここへは案内出来ません」と。

また、あるスポーツ紙に「西の名物 東の本物」とかぶら橋をとりあげていました。その本物のかぶら橋、奥祖谷二重かぶら橋が、「本物」としての価値を守るための観光こそが、今目ざすべき方向ではないどろうか。

目先きの事ではなく、五年後、十年後の三嶺、祖谷の観光を考える時その為に今、何を作って、何を作らないか。何が必要で、何が不必要を、各方面の声を聞いて、計画をたてることが、まずやることではないかとおもいます。

剣山のきんぽうげやウマや寒峰の福寿草が少なくなっていくのはどうしてでしょうか。三嶺のコメツツジだって時々盗掘にあっています。

その他の山野草だって、決して例外とはいえないとおもいます。

私たち、祖谷に住んでいる人たちが私たちの村の素晴らしい自然をどのように愛し、守り、その価値を伝えていくのが今、問われているのかも知れません。「夢なき夢」ではなく、夢を出していく時が今ではないでしょうか。

「作ってはダメ」になっていく、税金の無駄使いにピリオドを打たんかえ。

三嶺という山は、何も言いませんが、ずっと泣いているとおもいます。

○ 今年も、あと二月です。
85年は、てんぐ新聞が100号を突破した年でもありますが、特別のことではありません。100号をこえて、多くの人に読んで頂いていますが、にだそれだけです。祖谷のことをお知らせは出来ているかも知れませんが、ここ、、、。
とにかく、読みずらい下手な文字で、拙い文章に目を通して頂いたことありがとうございます。
86年も、同じ様なことになるでしょうが、よろしくお願いします。皆さん、お元気で年末年始をお迎え下さい。
本当にありがとうございました。